

中高生スポーツ 暴言・体罰防げ

まんがでわかる「これはX」

スポーツ界で不祥事が相次ぎ、コンプライアンス(法令順守)が改めて課題となる中で、一般社団法人「スポーツ・コンプライアンス教育振興機構」(東京都港区)は、部活動をする中高校生ら向けに漫画でコンプライアンスを解説する本を作成、近く発刊する。若者に親近感のある漫画を通じてフェアプレー精神の育成を目指したい考えだ。(加藤行平)

来月、出版の予定

タイトルは「まんがでわかる みんなのスポーツ・コンプライアンス入門」(仮称)。五人の漫画家が作画を担当し、反コンプライアンス的な行為をストーリー

仕立てで紹介している。男子バレーボール部コーチが、指示通りにできない部員たちを体罰や暴言で追い詰めたり、女子バスケットボール部のコーチが部員の体を触り、「お前は醜い」と容姿を中傷するなど、指導者のエピソードを紹介。「勝



武藤芳照代表理事

導者側のハラスメント行為を描いている。また、サッカーの試合で「弱気なプレーはダメだぞ」と仲間からプレッシャーを受けた部員が、ラフプレーで相手の選手をけがさせたり、野球部の補欠部員が喫煙をしてチームが出場停止に追い込まれるなど、部員が起こす問題点を取り上げている。

スポーツ・コンプライアンス教育振興機構 スポーツ界で違法行為やコンプライアンス違反とされる行為が続発したことから、スポーツの価値を高め、守り育てるために、2017年4月に発足。20年東京五輪・パラリンピックを見据え、スポーツ・コンプライアンス教育を通じてより健全なスポーツの普及、振興を目指す。理事はスポーツ団体、教育機関の関係者や有森裕子さんら元アスリート、弁護士らが務める。



掲載予定の漫画の一場面。部活動中の体罰とセクハラを描いている。上の漫画は梅屋敷ミタさん、下は板垣翔子さん作成＝スポーツ・コンプライアンス教育振興機構提供

「スポ根」の発想 転換を

「つこがすべて」「痛みの向こうに勝利あり」という「スポ根」の発想から、「正々堂々と戦い、勝っても負けても互いに敬意を払う」という「スポコン」(スポーツ・コンプライアンス)への転換を呼び掛けている。スポーツ・コンプライアンス教育振興機構の代表理事、武藤芳照東京大名誉教授(左)は「『ルールを守る、大切にすること』がで

きず、劣化しているのはスポーツ界だけでなく社会全体に共通している」と指摘しつつ、「無知や無理がコンプライアンス違反行為を引き起こしている面がある。漫画を通じてやさしく、深く、面白く伝え、若い時からルールとフェアプレー精神を守ること、人間的な成長を目指してほしい」と呼び掛けている。八月初めに学研プラスから発行する。八十頁で千八百円(税別)の予定。学校の教材として生徒たちが学び、部活を指導する教師も活用することを想定している。問い合わせは同教育振興機構へ。電話03(5521)2205、ファクス03(3581)2210へ。